

イラクのホロコースト：270 万が暴力死または戦争による 喪失死

【訳者注】イラクについて大体のことは知っている。しかし、ここに暴露されているような深刻な事態があるということを知っていた日本人はごくまれであろう。マスメディア信者の反応は、まずこれを疑うことかもしれない。そんな深刻な現実があるなら、新聞やテレビが報道するはずだ、報道しないということは、存在しないか、無視してよいことなのだろうと考える。まずそれが完全な迷妄であることを知る必要がある。知るべき重要なことほど、意図的に報道されないと考えるべきである。

ここに明らかにされているのは、米や米同盟国の、理不尽、残虐、狂気、悪魔性を一つにつき交ぜたような思想と行動であり、それが隠ぺいされるという事実である。ジョン・レノン「我々は狂人たちに支配されている」と言った。単にそういう集団が存在するという話ではない、メディアを通じて我々がその犯罪集団に支配されていることが問題なのである。しかし今、世界はようやくそれに気づき始めたと思われる。

By Dr. Gideon Polya

March 27, 2015, Information Clearing House

良心をもつ人々が、最近 2015 年 3 月 19 日、不法な戦争犯罪者、米、英、オーストラリアが、イラクが大量破壊兵器をもっているという虚偽の主張に基づいて行った、2003 年のイラク侵略を思い出させる行事を行った。この侵略は国連の認可もなく、侵略国家へのイラクの脅威もないのに行われ、暴力（150 万人）と、暴力からくる喪失による死（120 万人）による、270 万人のイラク人の死をもたらした。西側は現在、1914 年以來、一世紀にわたる西側暴力の 7 回目の戦争を始めており、これによって暴力または暴力による喪失によるイラク人の死は、総計 900 万となった。しかし西側の主流メディアは、断固としてこの大虐殺、「無視された歴史は、歴史の繰り返しをもたらす¹」という悲劇的な格言の証を、無視し続けている。

ネオコンのアメリカと、シオニスト帝国主義者（ナチ）によって転倒され、捻じ曲げられた西側の主流メディアは、アメリカ同盟国がイラクでどれだけの人間を殺したかの、専門的な査定を全く無視し、戦争による生きる手段の喪失による、疫病関連の、非暴力的な、避けられた死という重要な概念を、完全に無視している²。

例をあげると、米軍が 2011 年にイラクから引き揚げた際に、オーストラリアの ABC 放送（英の BBC に相当する）は、「この撤退は、何万（tens of thousands）というイラク人の死と、4,500 近い米兵士の死を出した戦争を終わらせることになる」と報じた³。これと対照的に、専門的で秀でたアメリカの組織 **Just Foreign Policy** は、専門的な英アナリストと米トップの疫病学者のデータに基づいて、イラク戦争（2003–2011）での暴力死を 150 万人と見積もり⁴⁻⁷、国連のデータは、この期間における、戦争からくる喪失によるイラクの避けられた死を、更に 80 万人加算している²。湾岸戦争（1990–1991）と制裁期間（1990–2003）の暴力死と、暴力から生ずる喪失による避けられた死は、それぞれ、総計 20 万と 120 万になる¹。したがって、1990 年以來の、イラク人の暴力死（170 万）または戦争による喪失死（290 万）は、総計 460 万になる¹。

しかし西側によるイラクへの暴力は、1914 年のイギリスの侵略から始まった。英の支配あるいは覇権期間（1914–1948）のイラク人の超過死亡率が、英支配下のインド人のそれと同じだったと想定すれば（利用可能なデータから外挿すると、インド人の避けられた死の率は“年間死 1000 人”のうち、37（1757–1920）、35（1920–1930）、30（1930–1940）、24（1940–1950）⁸）、イラクの人口データ⁹から概算すると、1914–1950 間のイギリスの占領と覇権の下での、喪失による避けられたイラク人の死は、総計約 400 万になる。したがって、アメリカが背後にあったイラク・イラン戦争によるイラク人の死を無視すると、イギリスによる 1914 年のイラク侵略後の 1 世紀間の、英あるいは米の、暴力、または課せられた喪失によるイラク人の死は、900 万に上ると概算される。これは下に論ずる通り、イラク人ホロコースト、イラク人ジェノサイドと言ってもよいものだ。

ホロコーストとは大量の人々の虐殺のことで、アングロ・アメリカンによる暴力、または暴力による喪失による 900 万人の死は、確かにイラク人ホロコーストと言ってもよい。“ホロコースト”という言葉は、最初、第二次大戦のある残虐行為、“忘れられた”人為的「ベンガル飢饉」（ベンガル・ホロコースト）に関連して 1944 年に用いられた¹¹。このとき、6~700 万のインド人（多くはムスリム、したがって WW2 ムスリム・ホロコーストと呼ばれる）が、イギリス人によって、1942~1945 年間に、意図的に餓死させられた。（オーストラリアが、膨大な戦時備蓄の小麦を、飢えるインドに送らなかったことで、この残虐行為の共犯者となった¹¹⁻¹⁴。）ホロコーストという言葉は、その後、WW2 のユダヤ人ホロコーストについて使われた。そのときは 5~600 万人が殺されたが、6 人に 1 人は喪失死であると、最近亡くなった、（イラク戦争支持の、イラク・ジェノサイドを無視した、英シオニスト歴史教授）**Sir Martin Gilbert** は言っている¹⁵。これは 3,000 万のスラブ人、ユダヤ人、ジプシーの殺された、より大きい WW2 ヨーロッパ・ホロコーストの一部である²。

ジェノサイドは、国際法に、「国民的、民族的、人種的、または宗教的グループの、全体あるいは一部を、殲滅する意図をもって犯される行為」と、非常に正確に定義され、それは1948国連ジェノサイド会議の第2条に、更に細かく、「a) このグループのメンバーを殺すこと、b) このグループのメンバーに重大な身体的・精神的な害を与えること、c) このグループの全体または一部に、身体的な破壊をもたらすように計算された、全体的生命条件を意図的に加えること、d) このグループ内部で子を産むことを妨げるように意図された企みをする事、e) このグループの子供たちを別のグループに強制して移すこと¹⁶⁾」と書かれている。イギリス人やアメリカ人が900万のイラク人を殺す“意図”をもたなかったとするいかなる弁明も、101年間にわたって続いた無慈悲な殺戮に照らして、その嘘は明白だ。

1990年以來の、アングロ・アメリカンによるイラク・ジェノサイドは、200万の5歳以下の幼児の死を巻き込むものだった。内訳は、120万(1990-2003)と80万(2003-2011)、90%が避けられたもので、「戦時における民間人保護に関するジュネーブ協定」の55条と56条を真っ向から無視したものだ。この協定は、占領者は征服された人民に、「可能な限りの手段を尽くして」食料と医薬品を与えることを要求している¹⁷⁾。イラクのホロコーストは、戦争犯罪による大量児童虐殺でもある。

この四半世紀の西側の、石油およびアメリカの覇権とイスラエルのアパルトヘイト政策を狙った、イラクに対する暴力(1990-2015)の、呆然とする記録が下に要約されている。このデータの多くは、“Iraqi Holocaust Iraqi Genocide¹⁾”、イラクの学者 Dr Abdul-Haq および Tariq Al-Ani による“Genocide in Iraq”(Vol. 1, 2)、また、これらの著書の書評^{18 21)}に拠るもので、それらによると、イラクの人口3,000万のほぼ半数は子供である。

- (1) 170万のイラク人の暴力死
- (2) 290万のイラク人の、暴力的に課せられた喪失による避けられた死
- (3) 200万の5歳以下のイラクの子供の死——90%は避けられたもので、米同盟国によるジュネーブ協定の平然たる侵犯による
- (4) 770万のイラク人亡命者
- (5) 500万のイラクの孤児
- (6) 300万のイラクの寡婦
- (7) 100万のイラクの行方不明者
- (8) 4,000のイラク女性(20%は18以下)が行方不明、“取引きされた”と考えられる
- (9) 350万のイラクの子供が極端な貧困状態にある
- (10) 150万のイラクの子供が栄養失調状態
- (11) イラクの癌患者が、10万人につき40人(1990)、800人(1995)、1,600人(2005)と増加した

- (12) イラク人高度専門職の 40%が、2003 年以来、国を離れた
- (13) 34,000 の医者 (1990) が 16,000 (2008) に減った
- (14) 2,200 人以上の医者と看護師が殺された
- (15) イラクの医療予算が、年 4 億 5000 万ドル (1980–1991) から 2,200 万ドルに減少
- (16) 大多数のイラクの子供たちは、戦争によるトラウマに苦しんでいる
- (17) 1990 以前の高い識字率が、2011 には 74%の非識字率となる

イラクはその現代国家を、米国家テロ、英国家テロ、仏国家テロ、アパルトヘイト・イスラエル国家テロ、そしてオーストラリア国家テロによって破壊された。またこの同じ国家テロリストたちは、リビア、シリアをも、以前の現代的で、進歩的な国家の状態から、同じように破壊してきた。これらは許すことのできない犯罪であり、米同盟の戦争犯罪者たちは、国際法を通じて、また不買・(財産権利の) 剥奪・制裁 (BDS) を通じて、世界によって責任を追及されなければならない——イラクのホロコーストに責任のある戦犯西側諸国は、その責任を逃れることはできない。

要約

人種差別に反対のユダヤ人英作家ハロルド・ピンターは、2005 年のノーベル賞授賞スピーチで、こう宣言した——「私たちは、拷問、クラスター爆弾、使用済みウラン、無数のランダムな殺人行為、悲惨、屈辱と死を、イラクの人々にもたらし、これを“中東に自由と民主主義をもたらし”と言っています。いったい、大量殺人者、戦争犯罪者と呼ばれるためには、どれくらいの人間を殺せばよいのですか？ 10 万ですか？ 多分これで十分という数値はないのでしょうか。ですからブッシュとブレアは、国際刑事裁判所に突き出されるべきなのです²²。」1990 から 2011 までの、米同盟国の暴力 (170 万) と、暴力から生ずる喪失 (290 万) によるイラク人の死は、総計 460 万となるから、2015 年には、この偉大な人道主義者の言葉をこう言い換えることができる——「いったい、大量殺人者、戦争犯罪者と呼ばれるためには、どれくらいの人間を殺せばよいのですか？ 460 万ですか？ 多分これで十分という数値はないのでしょうか。」

不幸なことに、現在働いている国際刑事裁判所 (ICC) は、人種差別的、臆病、党派的で、ジェノサイドを無視する、ジェノサイド共犯者的な組織であって、その戦争犯罪に対する注視は、米同盟国が気に入らない犯罪者 (つまり非ヨーロッパの、セルビア戦争の犯罪者) だけに向けられている。(この問題については、Edward S. Herman と David Peterson による “The Politics of Genocide” を参照されたい^{23, 24}。) ICC は繰り返し、イラクのジェノサイドについての告訴を無視してきた (注 25、26 参照)。そしてこれは、世界が、イラクやその他の地域での、米同盟国の戦争犯罪に対する裁き得るためには、ICC から独立した国

際裁判所に訴えねばならないことを意味する。

米国家テロ、英国家テロ、仏国家テロ、アパルトヘイト・イスラエル国家テロ、そしてオーストラリア国家テロは、過去 25 年、統一された現代的な主権国家としてのイラクを破壊するために、さまざまに結びついてきた。イラクに対する終わりのない戦争と、現行のイラク・ホロコースト（ジェノサイド）に直面して、まともな人々は何ができるだろうか？ 平和が唯一の方法だが、沈黙は殺人者となり共犯者となる。まともな人々のなすべきことは、a) ネオコン・アメリカとシオニスト帝国主義者（ナチ）によって転倒させられた、主流メディアによるウソや無視²⁷にとらわれることなく、断固としてあらゆる人々に、イラクのジェノサイドについての真実を、可能な限り知らせること、b) 不買・（財産権利の）剥奪・制裁（BDS）——アパルトヘイトの南アフリカに適用して成功し、現在、米同盟国に支持された、核テロリスト、ジェノサイド人種差別者、“ジェノサイドによる民主主義”のイスラエルに対して適用されつつあるような BDS——を促進し適用することである。そのターゲットは、イラク人ジェノサイドや、シオニスト主導のムスリム・ジェノサイドに関わっている、すべての人々、政治家、党、会社、企業メディア、それに国家である²⁸。無視された歴史は、歴史の繰り返しを産む。我々は道路の反対側を歩いて、これを避けることはできない。

参考文献：

[1]. “Iraqi Holocaust Iraqi Genocide”:

<https://sites.google.com/site/iraqiholocaustiraqigenocide/> .

[2]. Gideon Polya, “Body Count. Global avoidable mortality since 1950”, that includes an avoidable mortality-related history of every country from Neolithic times and is now available for free perusal on the web :

<http://globalbodycount.blogspot.com.au/> .

[3]. “US military marks end of its Iraq war”, ABC News, 16 December 2011:

<http://www.abc.net.au/news/2011-12-15/us-military-marks-end-of-its-war-in-iraq/3733982>

[4]. “Just Foreign Policy”: <http://www.justforeignpolicy.org/iraq> .

[5]. ORB (Opinion Research Business), “January 2008 - Update on Iraqi Casualty Data”, January 2008: http://www.opinion.co.uk/Newsroom_details.aspx?NewsId=88

- [6]. Les Roberts, “Les Roberts: Iraq's death toll far worse than our leaders admit”, Uruqnet: 14 February 2007: <http://www.uruknet.de/?s1=1&p=30670&s2=16> .
- [7]. G. Burnham, R. Lafta, S. Doocy and L. Roberts, “Mortality after the 2003 invasion of Iraq: a cross-sectional cluster sample survey”, The Lancet 2006 Oct 21;368(9545):1421-8: <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/17055943> .
- [8]. Gideon Polya, “Economist Mahima Khanna wins Cambridge Prize”, MWC News, 20 November 2011: <http://mwcnews.net/focus/analysis/14978-economist-mahima-khanna.html> .
- [10]. “Iraq Population”: <http://www.populstat.info/Asia/iraqc.htm> .
- [11]. Jog, N.G. (1944), “Churchill's Blind-Spot: India”, New Book Company, Bombay.
- [12]. Gideon Polya, “Jane Austen and the Black Hole of British History. Colonial rapacity, holocaust denial and the crisis in biological sustainability”, G.M. Polya, Melbourne, 1998, 2008, now available for free perusal on the web:
<http://janeaustenand.blogspot.com/2008/09/jane-austen-and-black-hole-of-british.html> .
- [13]. Gideon Polya, “Australia And Britain Killed 6-7 Million Indians In WW2 Bengal Famine”, Countercurrents, 29 September, 2011:
<http://www.countercurrents.org/polya290911.htm> .
- [14]. Madhusree Muckerjee, “Churchill's Secret War. The British Empire and the ravaging of India during World War II” (Basic Books, New York, 2010).
- [15]. Gideon Polya , “UK Zionist Historian Sir Martin Gilbert (1936-2015) Various Ignored Or Minimized WW2 Bengali Holocaust”, Countercurrents, 19 February, 2015:
<http://www.countercurrents.org/polya190215.htm> .
- [16]. UN Genocide Convention:
<http://www.edwebproject.org/sideshow/genocide/convention.html> .
- [17]. Geneva Convention Relative to the Protection of Civilian Persons in Time of War:
<https://www.icrc.org/ihl/INTRO/380> .

[18]. “Genocide in Iraq Volume I . The case against the UN Security Council and member states” by Dr Abdul-Haq Al-Ani and Tarik Al-Ani (foreword by Professor Joshua Castellino; Clarity Press, Atlanta).

[19]. Gideon Polya ““Genocide in Iraq, The Case Against UN Security Council And Member States”. Book review”, Countercurrents, 8 February, 2013:
<http://www.countercurrents.org/polya080213.htm> .

[20]. Abdul-Haq Al-Ani and Tariq Al-Ani, “Genocide in Iraq Volume II. The Obliteration of a Modern State” (Clarity Press, 2015).

[21]. Gideon Polya, “Review: “Genocide in Iraq Volume II. The obliteration of a modern state” By Abdul-Haq Al-Ani & Tariq Al-Ani”, Countercurrents, 15 March 2015:
<http://www.countercurrents.org/polya150315.htm> .

[22]. Harold Pinter, “Art, Truth and politics”, Countercurrents, 8 December, 2005:
<http://www.countercurrents.org/arts-pinter081205.htm> .

[23]. Edward S. Herman and David Peterson, “The Politics of Genocide”.

[24]. Gideon Polya, “Book Review: “The Politics Of Genocide” By Edward Herman And David Peterson”, Countercurrents, 05 December, 2011:
<http://www.countercurrents.org/polya051211.htm> .

[25]. SEARCH Foundation, “ Australia's former Prime Minister Howard accused of war crimes before the International Criminal Court in The Hague”, Countercurrents, 7 June 2014: <http://www.countercurrents.org/searchnew2.pdf>

[26]. “9 January 2010 Formal Complaint by Dr Gideon Polya to the International Criminal Court (ICC) re US Alliance Palestinian, Iraqi, Afghan, Muslim, Aboriginal, Biofuel and Climate Genocides”:
<https://sites.google.com/site/iraqiholocaustiraqigenocide/9-january-2010> .

[27]. “Mainstream media lying”: <https://sites.google.com/site/mainstreammedialying/> .

[28]. “Muslim Holocaust Muslim Genocide”:
<https://sites.google.com/site/muslimholocaustmuslimgenocide/> .

(ギデオン・ポリア博士は、40年間、オーストラリアの主要大学で理系学生に教えている。)